

# 明治期の銀行 交流の場に

伊予で1911年築、余生は貸しサロ、

伊予市中心部に1世紀余の前に建てられた銀行が、市民サロ、として活用されることになった。歴史を感じさせる洋風の木造建築。「街を元気にしたい人が笑顔で集まる場に」（運営者）との願いを込め、愛称は「来良敷」と名付けられた。

建物は明治末期の1911年に伊予豊業銀行郡中支店として造られた。木製のコンクリート円柱や柱頭の飾り、木製カウンターといった西洋の様式を模した擬洋風建築で、日本が近代化を急いだ当時の世相を反映し

ているという。

昨年3月まで50年間、金融関係の協同組合が事務所として使っていた。空き家になったため、市の第三セクターが所有者の地元商店主から借りて活用を検討。伊予鉄道郡中駅

## コンクリート円柱・和室… 擬洋風建築

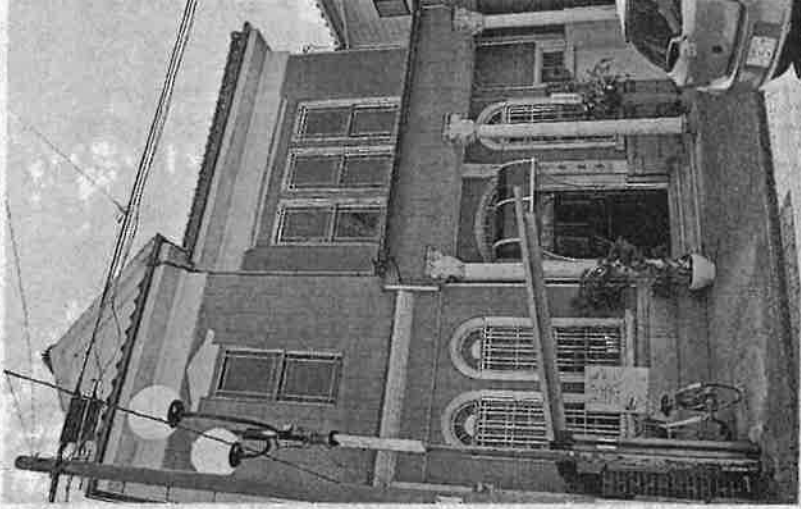
から徒歩5分の使いやすさと建物の貴重さを生かすため、商店主らでつくる三セク内の「郡中まち元気推進協議会」が運営して市民に貸し出すことにした。

貸すのは2室。洋室の「金庫の間」（約36平方メートル）が3時間400円、1日（12時間）1200円（いずれも税込み）など。中庭に面した和室「桜の間」（8畳）は同じ時間で半額。冷暖房は金庫の間だけにあり、使った使用料は3割増しとなる。

協議会はまちづくりの会議や勉強会、ギャラリーやライブで使うことを想定。市民以外でも申し込みできる。協議会のメンバーで建築士の若松一心さん（40）は「明治期の洋館で、現在も使える建物は珍しい。古い建物を生かした新しいまちづくりに活用してほしい」と話した。

貸し出しは11日以降。協議会は当面、来年3月まで貸し出し、その後の活用は実績を踏まえて考えるという。問い合わせは協議会の徳本さん（090・4974・0329）または菊沢さん（090・1577・7768）へ。

（豊貴幸）



①建てて1世紀が経つ趣ある外観 ②中庭に面した「桜の間」＝いずれも伊予市離町